

札幌市電延伸と私たちの会の取り組み

札幌LRTの会 事務局長 石川一男

<https://s-lrt.sakura.ne.jp> ikazuo@rose.ocn.ne.jp

はじめに

私たちの会は、都心交通のあり方とまちづくりについて、国内外の事例の情報収集と考証を続け、必要に応じて書籍の発刊等を主体とした活動を30年続けています。

その間、私たちの住む札幌都心交通の要である札幌市電については、全面廃止から計画を見直したため札幌駅前への延伸は不可欠な事業になると信じ、札幌市の復活検討を見守ってきました。

札幌市では2010年に市電の3方向延伸試案を発表して、2012年にはその調査計画と予算を確定し調査が始まりました。その間2015年には日本初の都心ループ化事業を完成、駅前延伸の調査も最終盤となり、私たちは駅前延伸の表明を10年以上心待ちにしていました。

1. 札幌市の計画変更

札幌市は2023年3月に「札幌市路面電車の延伸検討結果」を公表しました。

札幌市はそのなかで、沿線土地利用への影響、道路交通や経済活動への影響、収支採算性、と3つの課題を挙げ「路面電車の延伸を行うことは極めて困難である。」と結論付けました。

この結論は2012年の市の方針に矛盾するのではないかとの疑念を持ち、札幌市の担当部局と「3方向断念ではなく駅前への延伸計画だけでも検討できないか」と接触することとなりました。

市には「調査中の10年以上、市民説明会や公聴会等も開催されないままの今回の結論は早計ではなかったのか」と意見を表明しましたが「延伸の重要性は十分理解している。現時点では延伸は極めて困難で有るが断念ではない」との回答を市の担当者からもらうのが限界でした。

この時に担当者は「結論を出すのは首長であり、首長を動かすのは市民の声である。」との自明の理の発言があり、私たちは改めて私たちの延伸についての活動を見直すきっかけになりました。

2. 私たちの会の反省と取り組み

私たちの会は永年国内外の都心交通を眺め、モータリゼーションの波に消えていった路面電車と、近年の環境重視の中諸外国で復活している路面電車(LRT)の状況を知り、日本・札幌もまたチンチン電車でない路面電車の復興が始まると信じていました。(当然であると・・・)

ところが私たちの見解とは違う札幌市の「検討結果」に対し、札幌市民の反応はほぼゼロに近いものでした。私たちが、「高齢者社会の市内回遊の足」、「車離れ社会、省エネ(脱炭素)」、「街の賑わいの軸」、「排気ガスのない」と、いくらその利点を主張してもその声が市民の皆様には伝わらない「ドンブリ」の中の自己満足にすぎなかったことを思い知らされました。

市民が市電に持つイメージは「40年前の市電縮小」の頃から、「札幌の一部を走る市電」になり「市電は利用する一部の市民のもの」であり「一般市民の生活には不要」なものという負のイメージが醸成されていったのではないかとの思いにたどり着きました。

会内での討議を重ね、今後の活動について今までとは大きく方向転換への舵を取りました。

「考える集団」から「発信する集団」への衣替えです。ただしその前提として、札幌市民に「市民が

市電を身近なものとし、必要なものである。」と感じてもらおうという原点にもどることにしました。

下記のような新しい活動を2023年秋から開始しました。

1) 札幌都心交通再考フォーラム（7回開催）

毎回多彩なゲストをお招きして新しい視点での都心交通を考えています。

2) 札幌LRTの会 パンフレット作製（4種発行）

2024年・2025年・ループ化10年・雪国の市電—ササラとユキミク— を発行した。

3) 市電無料試乗会（6回実施）

現在は運転手さん不足で中断していますが、車中でクリスマス会や街並みのお話ことができました。

4) 市電紹介展示会（2回実施）

「延ばそう市電」をテーマに開催2026年3月には「雪国の市電 ササラとユキミク」開催

5) みんなの乗り物（3回開催）

市内の児童館を回り市電沿線の映像と、寄贈する市電カードでゲームを行うイベント。

6) 研究支援（3研究に支援）

都市交通に興味を持つ学生対象に研究テーマを募集、審査の結果採用研究に奨励金を支給する。

3. 行政との情報交換

活動については市電担当部局に内容を報告、各事業についての市の後援についても相談しました。

今年の3月の展示会に来られた担当者から「催しのキャッチコピーが【延ばそう市電】となっているが、市では【延伸については難しい】と表明している、断念しているわけではないがこのコピーがあると後援に名を連ねるのは難しい。」と示唆がありました。

会でも検討を行い2025年度からのコピーを【活かそう市電】に変えることにしました。

その結果まちづくり補助金の支給団体にも認定され、資金補助を受けることになりました。

終わりに

当会は永年にわたり都心交通に対する一家言を有していると思い自負もしていました。市への対応も情報交換と言いながら情報の押し付けになり、会も発足から30年近くたち会員も高齢化して市の担当からは煙たがられている集団ではなかったかと反省しています。

当会にとって一番大事なことは「市電は市民のもの」との認識が広まることであり、このためバランスの取れた情報発信が目的に近づく最短ルートだと感じています。

市民の皆様に「駅につながる市電はこれからの生活にとって不可欠なものである。」との共通認識を持っていただき、いつの日か広島のように「市電が札幌駅につながる日」をめざして活動を続けていきます。

**参考展示文献

札幌市路面電車の延伸検討結果 開催フォーラム一覧表 展示会資料 支援研究報告 等